

しらかば

第70号

平成26年
(2014年)

10月

公益財団法人 北海道札幌市東区北26条東14丁目1-15
北海道対がん協会 Tel (011)748-5511 Fax (011)748-5512

<http://www.hokkaido-taigan.jp/>



「就任ご挨拶」

北海道対がん協会会長 長瀬 清

この度、菊地会長の後を引き継ぎ、北海道対がん協会の会長に就任いたしました。

まず、何を置きましても、菊地会長の長きにわたる当協会へのご尽力に感謝を申し上げます。

菊地会長は、半世紀にわたり当協会に携わり、特に後年の13年間は会長職として協会の舵取りをいただきました。復刻「がん早期発見の偉大な先達」「がん、やっぱり早期発見・早期治療」という素晴らしい本を頂き、当協会が偉大な先人達によって85年の歴史を築かれたと再認識しました。本当に偉大な菊地会長の後ですし、北海道医師会の会長職と二足のわらじの勤めとなりますが、この上は全精力を傾注し、その大任を果たして参りたいと考えております。

今日、日本国民の約半数の人ががんになり、3分の1がそのため亡くなっていますが、6分の1は適切な治療により救命しています。この6分の1の割合をいかに上げるかが当協会の責務と認識しています。

がんの予防には、1次予防、2次予防、3次予防の3つがありますが、3次予防は、がんにかかった人が転移等、病状をそれ以上悪化させないようにすることです。1次予防は、がんが発生する前にがんの引き金になるものを避け、がんにならないように気をつけることです。それには、受動喫煙も含めた禁煙をはじめ、過剰な塩分摂取・肥満・飲酒等食事や運動も考えなければなりません。他に細菌やウィルス等によりがんが引き起こされるものがあることもわかってきましたので、これらに対する感染の有無を知り、治療や予防措置をとることががんの予防となります。こうした1次予防は、当協会が行っている普及啓発にあたります。2次予防は、早期発見・早期治療でがんを征圧する検診がその役割を果たします。検診で見つかるがんは90%は治せることから、がん検診の受診率を上げなければなりません。

しかし、がん検診の受診率は、欧米等諸外国に比べ日本は非常に低

く、更に北海道においては全国平均より下回っています。

国でもがん征圧のために平成18年にがん対策基本法を制定し、がん対策推進計画に基づき各種対策がなされているところであります。北海道では、平成24年がん対策推進条例を制定し、「北海道健康推進計画すこやか北海道21」を策定、種々の目標値を設定して、道民の健康を守るべくがん対策、生活習慣病の発症予防等に取り組んでいます。

北海道対がん協会としましても、道民の健康を守るという使命を遂行するために、道と提携のもと各関係機関と連携し取り組んでまいります。各市町村のご協力が是非必要です。また都市部においては、希薄になりがちな町内会や婦人活動団体にも働きかけ、皆さんと膝を交えながら、早期発見・早期治療の大切さ、検診受診を説くことで受診の輪が広がっていくことを願ってやみません。

最後になりますが、菊地会長が保たれてきた「北海道対がん協会では、年間60万件のがん検診を行い、約1,100名のがんを発見している。それは、年間約1,000人の道民の命を救っていることになる。」という実績に恥じぬよう、職員一丸となって一歩ずつ着実に進んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



「退任ご挨拶」

前北海道対がん協会会長 菊地 浩吉

このたび任期満了し、北海道対がん協会会長を退任いたしました。

かえりみますと、2001年に吉田信前会長急逝の後をうけ、会長に就任して以来、14年になります。その間、2012年には協会を公益財団法人とすることができました。

周知のように、北海道対がん協会は1929年に創立された日本最初の対がん協会です。協会ががん検診を始めたのは1963年で、私はそのかなり初期の頃から病理組織検査を嘱託されていました。その後、評議員、理事、常任理事、副会長を勤めました。したがって北海道対がん協会の85年の輝かしい歴史のうちの50年近くを共にすることができたのは、大変光栄なことでした。

会長時代の私の名刺の裏側には次のような言葉が書かれています。「北海道対がん協会では年間約60万件のがん検診を行っており約1,100名のがんを発見しています。検診で発見されたがんの約90%は治せます。また、治療の苦痛も費用も少なくてすみすみ、ご家族の物心両面の負担も、国の医療費もはるかに少なくてすみすみ」。この数字は今の所どうにか保つことができていると思います。端的に言いますと、北海道対がん

協会は、職員全体が一致協力して年間約1,000人の道民のがん患者の命を救っているのです。私は苦しい時はいつもこのことを思い浮かべて我が身を励まし、職員の皆さんにもそのことを申し上げてきました。

公益財団法人北海道対がん協会は、がん検診および、がんを含む生活習慣病の健診により、北海道民の健康、福祉に貢献する重大な使命を持っています。その遂行のためには、多くの道民の皆様の検（健）診受診が前提となります。単純計算すると、現在のがん検診率の20%が、2倍の40%になれば、救えるがん患者は年間2,000人になります。この為には各市町村の大きなご協力が必要です。

道民の皆様には、がんから身を護る最高の手段は、がん検診を受けて、たとえがんに罹患したとしても、早期に発見して、早期に治療すれば決して恐ろしいものではないことを再確認していただきたいと思います。

職員の皆さんには、一人でも多くのがん患者を救うことが、公益財団法人に身を置く皆さんの天職であることを自覚し、日々の仕事に自信と使命感をもって行っていただきたい。

幸い後任会長は、長瀬 清北海道医師会長にお引受けいただけることになりました。長瀬新会長は、広大な北海道の医療の総元締として、見識の高い方で、北海道対がん協会が目指す地域住民の健康、福祉の向上に対し、これ以上に適切な方はいません。私が為し得なかった北海道民のがん検診受診数の飛躍的増加も夢ではないと思います。

対がん協会に在任中に各方面からお寄せ頂いた御厚情に深謝いたします。

有難うございました。今後とも北海道対がん協会を宜しく願います。



2013年度 がん征圧全国大会

がん征圧全国大会が北海道で開かれるのは3回目です。最初は1971年、2回目は1990年で何れも札幌市で開催されました。北海道対がん協会は、わが国で一番歴史が長く、実績もある対がん協会です。盛会が期待されました。

2013年度の大会場はさっぽろ芸術文化の館で、参加者数は2,000人を越え、大会史上最高の入場者で、広い会場を2階席までほぼ満たしました。特に若い女性の参加が目立ち、大好評でした。

垣添忠生日本対がん協会会長挨拶、来賓挨拶、いずれも北海道の対がん運動の発展を讃え、全国的な癌の征圧を期待するものでした。次いで日本各地で長年がんの啓発、検診に功績のあった方々に名誉ある2013年度日本対がん協会賞が授与されました。

第13回朝日がん大賞は、北海道対がん協会の菊地浩吉会長に、40数年に亘るがん予防の啓発普及活動とがんの免疫診断、治療における業績に対して与えられました。この大きな賞が北海道対がん協会の会長に与えられたことは、地元北海道の対がん運動が高く評価されたことであり、大変名誉なことでした。

記念講演は「明るくさわやかに生きる～アグネスが見つめた命」という題で、ご自身の乳がん体験という深刻な問題を、爽やかで、ユーモラスにお話いただきました。参加者は臉を熱くしたり、笑ったり、深い感動を与えられ、その中に早期発見、早期治療の大切なことを印象づ

けられました。

アトラクションは「コカ・コーラ・札幌国際大学」よさこいチームの皆さんによる躍動感あふれる踊りで、広い舞台いっぱい若い力と輝く命を表現し、大会スローガンの「若い力 いのち輝け 北斗の指針」ぴったりのデモンストレーションでした。本大会アピールとともに、北海道のがんの検診、予防にかける熱い思いが伝わったと思います。

前日のシンポジウムと歓迎レセプションは東京ドームホテルで行われました。

テーマは「新しいがん検診のあり方を探るー乳がんー」で、増え続ける乳がんの検診方法の改善が論じられました。シンポジウムは厚生労働省がん対策健康増進課長 椎葉茂樹氏、東北大学大内憲明教授を座長に行われ、よりよい検診法の方向付けが行われました。懇親会は日本対がん協会理事長秋山耿太郎氏はじめ、来賓各位の軽妙なスピーチ、知事、市長など地元の歓迎挨拶に始まり、例によって、北海道の海の幸、山の幸、地酒が振舞われ、全国からお集まりの皆様にご満足をいただきました。

以上、今回の集会やセレモニーで強く感じられたのは、対がん運動が高齢層に傾きつつあった近年の傾向から、若い層が主体となって、アクティブ且つ広く行われる流れが、この北海道におけるがん征圧全国大会をきっかけにおこって来たことでした。

(記：菊地浩吉名誉会長)

2013年度 がん征圧全国大会（札幌市）

日 時：平成25年9月13日（金）
場 所：さっぽろ芸術文化の館（ニトリ文化ホール）
主 催：日本対がん協会 北海道対がん協会
特別後援：朝日新聞社
後 援：厚生労働省 日本医師会 北海道 札幌市 北海道医師会 北海道新聞社 H T B北海道テレビ
 北海道健康づくり財団 北海道健康をまもる地域団体連合会

■朝日がん大賞：菊 地 浩 吉 札幌医科大学元学長、北海道対がん協会会長

■日本対がん協会賞

個人の部：狩 野 敦 氏 いわて健康管理センター長
 佐久間 正 祥 氏 水戸赤十字病院名誉院長
 中川原 章 氏 千葉県がんセンター病院長
 永 山 孝 氏 介護老人保健施設かりゆしの里施設長
 原 信 之 氏 福岡県すこやか健康事業団会長
 森 下 立 昭 氏 香川県総合健診協会会長 香川県医師会会長

■日本対がん協会賞

団体の部：千葉県東金市（志賀直温市長）
 富士市医師会医長疾患研究会（櫻村弘隆会長）

■記 念 講 演：「明るくさわやかに生きる～アグネスが見つめた命」
 日本対がん協会ほほえみ大使 アグネス・チャン氏



開催は北海道対がん協会設立と同日の9月13日。北海道らしい秋晴れに恵まれました。



大会テーマは「若い力、いのち輝け、北斗の指針」。高校生や専門学校生にも多数参加いただきました。



がん征圧に貢献された7名の方と2つの団体へ賞状と記念品が授与されました。



自身の乳がんの治療経験を、わかりやすく、時にユーモラスにお話しいただきました。大変感動的で、涙を流される方もたくさんいらっしゃいました。



子宮頸がんの啓発を行う女子大生リボンムーブメント北海道が同世代へメッセージを発信しました。



コカ・コーラ・札幌国際大学による力強い演舞で大会が締めくくられ、次回開催の福岡県へバトンが渡されました。

2013年度 がん征圧全国大会記念シンポジウム 「新しいがん検診のあり方を探る ～乳がん～」

日 時：平成25年9月12日（木）

場 所：東京ドームホテル札幌 クレストホール

主 催：日本対がん協会 北海道対がん協会

パネリスト：大内 憲明氏 東北大学大学院医学系研究科教授・同科長・医学部長

椎葉 茂樹氏 厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長

平田 公一氏 札幌医科大学教授・同附属病院長

仁賀木 由紀子氏 福岡県すこやか健康事業団新健診システムプロジェクトチーム・保健師

（司会：日本対がん協会マネジャー 小西 宏）

【概要】

■日本の乳がん検診の歴史

- 1987年（昭和61年）…30歳以上、検査方法は視触診のみ
- 1999年（平成11年）…がん検診は一般財源化され、検診の実施、検査方法の選択などは、市区町村の判断に委ねられる
- 2000年（平成12年）…50歳以上を対象にマンモグラフィを導入
- 2003年（平成15年）…受診間隔が毎年から2年に1回へ
検診間隔が1年から2年に延長した場合でも、同様の死亡率減少効果が期待できる上に、できるだけ多くの人が受診できるように受診機会を確保するためです
- 2004年（平成16年）…40歳以上を対象にマンモグラフィを導入
- 2007年（平成19年）…がん対策基本法施行、科学的知見に基づくがん検診が一層求められる

■日本のがん検診のしくみ

大きく分けて2種類

- ・対策型検診…地域などにおけるがん死亡率の減少が目的。多くは費用が補助される半面、検査方法や対象年齢などに制限がある。「最小限の費用で最大限の効果を受診者全体が公平に享受」するために、有効性の確立したがん検診が選択される。
- ・任意型検診…医療機関などが任意で提供する医療サービス（人間ドック等）。さまざまな検診方法があり、個人が自分の目的や好みに合わせて選択できるが、がん検診として有効性の確立していない検査方法が含まれる場合もある。

放置したら命にかかわるがんを、出来るだけ早い段階で見つけることが対策型検診の目的です。

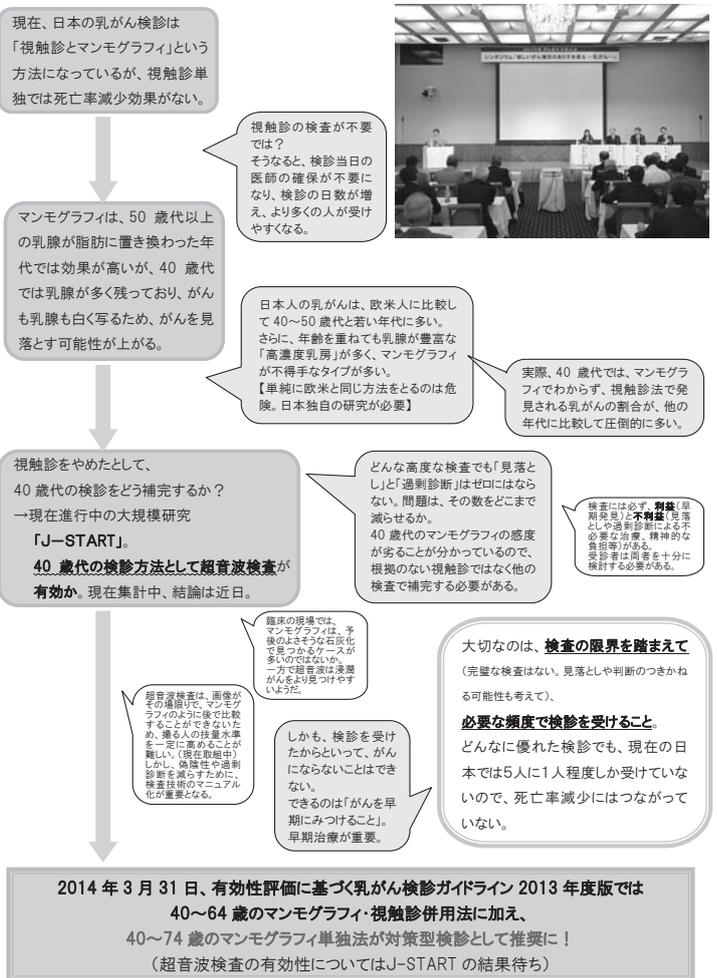
放っておいても、大きくなる前に自分の寿命がくるような、重箱の隅をつつくような小さな小さながんを見つけることは目的にはしていません。

そのため、対策型検診は、科学や医療技術の進歩に伴い、「がん検診を行うことで、がん死亡率が確実に減少しているかどうか」に焦点をおいて何度も見直され、国内外の研究を系統的に検索し、より科学的根拠に基づく方法が選択されています。その研究は非常に厳しく、何万～何十万人を無作為に抽出して比較検討されているので、客観性の高い内容となっています。

詳細は国立がん研究センターがん対策情報センターホームページ「がん情報サービス」がん検診をご参照ください。

http://ganjoho.jp/professional/pre_scr/screening/screening.html

■シンポジウムで語られた乳がん検診の問題点



平成25年度 がんに関する健康教育

北海道対がん協会では、企業、学校、関係団体等からの依頼に応じて、随時講師を派遣し、健康教育を実施しています。健康教育を通して、一般市民の方へがんに関する正しい知識を直接お伝えするだけでなく、受講された方が、仕事や家庭で周囲の方に伝達していただくことを目的としています。

開催日	開催場所	参加者数	内容	従事者
5/14	日本生命保険相互会社	30名	ニッセイ無料セミナー「知って受けよう！胃の検診～ピロリ菌と胃の病気～」	内科医師
7/10	札幌市立清田高等学校	320名	性に関する講演会	婦人科医師
8/1	国立滝野すずらん丘陵公園	20名	国営滝野すずらん丘陵公園 開園30周年イベント「乳がんについて」	保健師
10/16-17 (計3回)	札幌丸井今井	35名	乳がん予防健康セミナー「乳がんから自分を守る」	保健師
10/19	市民劇場ヲタル座 (ウィングベイ小樽)	20名	「今、正しく知ろう子宮がん検診～大切な未来のために～」	婦人科医師
10/29	旭川市シニア大学	50名程度	旭川市シニア大学・大学院講座「胃がんとピロリ菌について」	内科医師
11/8	旭川ファイトクラブ	20名	旭川ファイトクラブ勉強会「がんの予防について」	保健師
11/26-27 (計2回)	株式会社日動 パートナース札幌	51名	職員研修「がん検診の重要性」	(札幌) 保健師
12/11	札幌市立旭丘高等学校	350名程度	性に関する講演会	婦人科医師
26/1/28	旭川市 忠和地区センター	30名	旭川市がん予防教室「胃がん検診Q&A」	放射線技師
1/28・1/30・2/5 (計3回)	日本生命苫小牧支社	75名	職員・市民研修「乳がんから自分を守る」	保健師
2/2	旭川市 千代田地区女性部	33名	平成25年度新年交流会・研修会「がん検診について」	事務職員
2/12	釧路保健所	20名	釧路圏域 地域保健・職域保健連携推進連絡会「釧路圏域のがん検診受診の動向」	事務長
3/5	安平町	70名	安平町家族の健康を守る集い「婦人の健康を守るために～特に増加している乳がんから身を守る為～」	放射線技師
3/10	旭川市 豊岡地区センター	30名	旭川市がん予防教室「楽しく学べるがん予防」	保健師

講演内容、時間、場所等をご相談に応じます。
お気軽にお問い合わせください。

担当：(公財)北海道対がん協会
経営企画課長補佐 熊林
Tel. 011-748-5511
E-mail: office@hokkaido-taigan.jp



がんのイベントを 開催しています！

ピンクリボン活動や子宮頸がんに関する普及啓発に取り組んでいる市民団体を支援し、団体の協力のもと、がんに関する正しい知識の啓発を行いました。

【ピンクリボン in SAPPORO】

ピンクリボン in SAPPOROでは、乳がんへの意識を高めて検診の必要性を訴えかけていくとともに、患者、医療関係者、市民の交流の場づくりを目的として様々な活動を展開しています。

- 1：乳がんの早期発見・早期診断・早期治療のための啓発運動を促進しています。
 - 2：医療者・患者及びその家族・一般市民の交流の場を形成しています。
- ・ 4/20 大切な人を守ろう！乳がん検診無料体験 (乳がん検診車協力)
 - ・ 8/25 2013ピンクリボンロード (スタッフとして協力)
 - ・ 2/9 ワーキング・サバイバーズ・フォーラム2014
～がんと仕事～ (乳がん検診車協力)



【一般社団法人 女子大生リボンムーブメント北海道】

「大切な人に、大切なことを、大切に伝えよう」をモットーに、女子大生一人一人がメッセンジャーとなり、自分の言葉で「誰かの大切な人」を守るためのメッセージを発信しています。20代女性の発症が増えている「子宮頸がん」という病気の予防啓発活動をしています。

- ・ 5/12 母の日における乳がん予防キャンペーンでパンフレット配布 (500部)
- ・ 12/14 SORAこそだてフェスティバル2013でブース展開 (207名)



【一般社団法人 Stand for mothers】

ママが「自分らしく」「楽しく」、そして「子どもたちにとって、住みやすい社会、本当にいい社会をつくっていこう」という理念に共感&行動するママと、そんなママたちを応援する人々による、ママのための支援コミュニティ。被災地のママ支援を機に立ち上がり、2012年5月に社団法人になりました。

- ・ 11/24 ママ友検診の実施 (託児付検診、ミニ健康教育)
ママ14名、子ども11名参加



【北海道対がん協会オリジナル】

■成人の日式典における普及啓発 (札幌市東区)

平成26年1月13日(月)、札幌コミュニティドーム (つどいむ)にて、新成人に対して、子宮頸がんに関する手作りの資料を200部配布して、20歳からの検診を呼びかけました。



■がん予防学級の開催

昭和46年より、がんに関する正しい知識の普及を目的として、開催地の市町村と共催でがん予防学級を開催しています。

9月27日(金) 44名参加	【釧路がん予防学級】釧路市と共催 「内科のがん」 釧路がん検診センター所長 松浦 邦彦
10月8日(火) 76名参加	【旭川がん予防学級】※ ①「子宮がんのおはなし」 総合検診第2課長補佐 新開 おりえ ②「胃がん検診とピロリ菌胃炎」 旭川がん検診センター所長 安保 智典
11月5日(火) 35名参加	【帯広がん予防学級】帯広市と共催 ①「内科のがん」 釧路がん検診センター所長 松浦 邦彦 ②「子宮がんについて」 釧路がん検診センター事務長 若松 邦子
11月7日(木) 23名参加 11月14日(木) 22名参加	【札幌がん検診センター】札幌市と共催 ①「がんで泣くより笑って予防」 総務課普及係長 植村 絵美 ②「消化管のがんについて」 札幌がん検診センター長 手林 明雄 ③「子宮頸がんについて」 細胞診センター所長 藤田 博正 ④「マンモグラフィ検診について」 放射線科長 黒藤 邦夫

※旭川がん予防学級については、このほかに「旭川市がん予防教室」を開催しているため、共催とはしていません。

■教育機材の貸し出し

乳がんのしこりを体験できる「乳がん触知モデル」や、がん予防普及パネルを無償で貸出しております。平成25年度はピンクリボン活動団体や大学生に貸出し、イベント時に活用していただきました。また、初めて「SMBCコンシューマーファイナンス(株)札幌お客様サービスプラザ(札幌狸小路)」でパネル展を実施し、開催2週間で延べ119名の来場がありました。

賛助会員名簿

(平成26年7月末日現在)

(敬称略)

ご 報 告
平成25年度(平成25年4月1日～平成26年4月11日)の賛助会費の収支決算は、次のとおりです。会員の皆様に厚くお礼を申し上げ、ご報告いたします。
なお、名簿には平成26年度の新規会員も含まれます。

		収 入 の 部	
個 人 会 員	412件		651,000円
法 人 会 員	113件		1,391,000円
	計		2,042,000円
		支 出 の 部	
通信運搬費	資料等の郵送料		373,080円
印刷製本費	普及啓発用パンフレット等の印刷費		1,668,920円
	計		2,042,000円

個人会員の部

		佐々木 千雅子	村 上 軍 時	原 隼	手 林 明 雄
		佐々木 直 子	森 愛 子	原 冬 子	寺 尾 彩 子
札幌市中央区	横 内 紫 乃	佐々木 秀 子	山 内 美 惠子	張 山 朋 恵	花 田 雅 輝
相 澤 信 之	吉 川 泰 代	佐々木 容 子	山 田 明 美	林 恵 美子	藤 田 博 正
浅 川 聡 子	吉 山 八 郎	佐 竹 啓 一	吉 田 直 美	日 野 順 子	船 橋 芙 沙 子
浅 川 礼 子	札幌市北区	佐 藤 幸 代	渡 辺 知 代	福 澤 宗 司	山 上 み ゆ き
東 恵 子	新 枝 百 合 子	佐 藤 ト キ エ	札幌市東区	藤 川 甫	山 崎 順 子
伊 藤 雅 子	伊 賀 恵 美 子	佐 藤 裕 子	市 川 浩 巳	増 田 聖 悟	山 本 八 重 子
今 井 る い 子	五十嵐 秀 子	沢 田 マ サ 子	浦 洋 子	三 浦 み どり	若 松 紀 多 子
大 上 婦 美 子	生 富 徳 子	篠 永 蘭 子	大 友 信 征	毛 利 拓 哉	札幌市南区
小 田 寿	稲 垣 哲 夫	庄 司 淑 子	大 原 圭 子	山 口 喜 代 子	遠 藤 留 美 子
桂 絢 子	猪 股 順 子	白 井 富 枝	奥 野 信 也	山 崎 留 美	小 野 寺 多 恵 子
金 田 晶 子	猪 股 正 行	高 橋 茂 子	小 山 内 富 枝	吉 田 晃 暢	加 藤 徹
木 田 達 子	上 杉 信 子	竹 村 多 実 子	北 本 哲 也	札幌市白石区	加 藤 睦 子
栗 林 夜	宇 内 光 枝	高 橋 茂 子	小 沼 真 澄	小 林 和 子	加 藤 道 子
鈴 木 信 一	遠 藤 将 代	富 樫 み よ 子	小 林 博 子	小 林 三 枝 子	高 橋 幸 子
谷 川 都 夜 子	遠 藤 洋 子	長 澤 和 重	小 松 薫	清 水 ミ ヨ 子	萩 原 重 利
千 葉 敏 也	大 淵 五 十 子	長 谷 美 千 江	小 室 勝 男	杉 本 芳 國	島 山 勝
塚 田 律 子	大 向 博 子	南 保 百 合 子	斎 藤 三 郎	谷 本 美 根 子	蜂 谷 禎
戸 屋 浩 一	長 内 瑠 美 子	西 嶋 和 恵	佐 藤 伸 尚	島 山 勉	三 好 真 弓
中 川 時 人	川 田 美 恵 子	似 内 英 子	佐 藤 則 子	山 口 昌 宏	武 藤 和 子
西 本 滋 子	川 原 久	Ne11 有 紀 子	佐 藤 文 俊	札幌市豊平区	武 藤 英 知
長 谷 部 孝 子	木 村 亜 矢	橋 本 智 子	佐 藤 政 子	安 孫 子 光 春	村 山 タ ケ 子
八 柳 奈 美 子	木 村 英 子	島 眞 佐 子	佐 藤 芳 子	伊 藤 伸 一	村 山 隆 一
福 原 サ ダ	工 藤 昭 子	島 山 教 子	周 東 百 合 子	梅 澤 順 子	八 木 澤 文 子
藤 原 美 樹	熊 林 弘 美	花 川 美 江 子	鈴 木 美 由 紀	大 家 秀 雄	山 口 由 美 子
古 川 智 彦	黒 田 モ ト エ	藤 田 秋 見	高 木 祐 子	小 川 多 恵 子	山 田 し を り
松 館 啓 二	黒 蕨 邦 夫	藤 田 智 子	高 橋 敏 憲	栗 田 勝	吉 井 廣 子
松 原 久 雄	小 鍛 冶 実 恵 子	藤 原 恭 子	高 山 裕 行	後 藤 保 子	札幌市西区
水 野 美 恵 子	小 島 良 子	古 川 貞 子	田 丸 波 於	佐 藤 絵 里 子	阿 部 里 絵
三 谷 黎 子	後 藤 靖 子	牧 野 洋 子	寺 田 武 司	新 木 一 二	伊 藤 ス エ 子
村 上 芳 郎	小 西 彩 子	松 林 慎 子	傳 法 公 麿	高 橋 ま ゆ み	岩 原 友 子
柳 瀬 敏 子	齋 藤 芳 子	丸 岡 和 子	中 村 陽 子	高 森 ふ じ 子	植 村 絵 美
八 卷 榮 子	佐 々 木 圓 治	峯 久 美 子	能 田 真 結	建 石 春 江	上 山 秀 夫
山 本 仁 史	佐 々 木 志 津 子	宮 崎 ミ ド リ	馬 場 真 志	丹 野 正 宏	勝 見 登 久 子

川合邦夫	森川シマ	佐藤利男	佐藤邦子	山本光博	船橋幸子
栗原鉦一	渡辺正嘉	推名安之	佐藤傳	紋別市	東神楽町
清水幸代	札幌市清田区	鈴木史妃	新堀正	舟見美登里	新関おりえ
志連義治	阿部春郎	鈴木貴	手塚紀子	竹澤康裕	当麻町
高橋延昭	石田ユキ子	鈴木宏彦	長澤きみ	士別市	井坪利子
田上稔	羽賀俊夫	清野友行	中尾繁	佐々木公則	上川町
竹内瓊子	半田信子	高橋綾子	中村道子	根室市	木村美江子
中川昌代	南出博子	高畑弘子	橋本厚子	伊東豊	増毛町
西野実花	山崎国男	田村阿伊子	秦治	高崎興史	菊地ゆき
前田好徳	吉川伸也	千葉美奈子	東崎英子	田家賢	高橋豫克
水野綾子	函館市	戸嶋梓	久田保枝	千歳市	長田ひさ
南聡一	村山信夫	中西健三	松木文子	中島栄子	西尾ヒナ
茂木由紀	小樽市	中山仁	松葉憲二	疋田恒夫	遠軽町
山川則子	小林万寿子	西川恒彦	三浦清子	恵庭市	植村勇二
山口裕晃	平松美智子	西田大	道辻重子	土川久美子	佐藤ケイ子
山室吉博	旭川市	長谷川優希	村田治美	伊達市	安平町
山本武	青木津弥子	馬場留理子	矢口初子	東愛子	眞山ヨシ子
札幌市厚別区	浅香伸一	林知子	山本終一	平口浩造	更別村
小角貞子	池野龍夫	東辻和彦	吉川カツエ	本間幸子	宿田成宏
佐々木稔	石川文秋	藤井哲哉	帯広市	北広島市	大樹町
佐田詔一	石川良美	藤田静江	鈴木宏視	高橋寿枝	茂木千恵子
立崎磯夫	石山好人	逸見洋子	前田龍男	服部智恵子	池田町
田中勇夫	今村伸	前井絵理	吉岡正史	石狩市	牧野成二
土田雅恵	岩城弘子	松嶋美智子	北見市	小松寛	釧路町
新田康子	岩崎敏博	松谷和江	阿部千鶴子	福田泰子	佐々木美恵子
橋掛清市	上西勝	三鍋澄子	楠瀬郁代	新篠津村	弟子屈町
原智恵子	荻原亮一	宮本博	岩見沢市	高村範子	斉藤牧子
深沢武雄	小野寺兌子	山崎知文	石井知江	森町	野口政雄
本吉和紀	笠茂光範	横田弘美	猪股正治	梶谷和子	鶴居村
札幌市手稲区	加藤智子	山下キミ子	今井武志	乙部町	滝澤博
大中房江	川橋貴大	渡辺富美子	来本富治	生田晃吉	向中野斌
工藤重民	工藤儀一	釧路市	網走市	京極町	白糠町
剣持小萩	工藤英明	浅井正子	山口征子	後藤ヒデ子	稲川洋子
剣持正治	熊谷節子	遠藤智仙	苫小牧市	俱知安町	岡部美佐夫
駒沢一文	熊澤愛子	大石耕治	高橋一郎	山本晶子	佐々木紀子
今野信代	黒墨智	大谷国雄	芦別市	古平町	高橋志保子
嵯峨山実	合田垂希	小原節子	若澤貢	工藤誓子	立石紀子
瀬野尾瞳	小関正道	北畠美恵子	江別市	奈井江町	田森直子
高井収	小西加奈子	木下榮	縣有	加藤幸子	桧森千枝子
高井瑞枝	小西穂	木村美江子	梅津敏敬	由仁町	廣谷完三
辻孝彦	小林暉親	工藤晃一	木下邦鷹	大畠安怡子	廣谷スマ子
西川雍子	斉藤毅	工藤典子	佐藤光春	東辻一正	峯田弘子
藤田義人	坂田裕美	倉兼俊之	鈴木康雄	栗山町	茂木スズエ
細越信子	佐々木重男	小西恒彦	西村節子	坂上由美子	山際百合子
三崎陽子	佐々木弘之	佐々木澄子	真方敏一	蕨嶋美智子	山口祥子
森智恵子	佐藤和美	佐々木光	山口孝代	鷹栖町	山吉文子
				安保智典	山吉千鶴子

市町村会の部

赤井川村
安平町
北竜町
八雲町
余市町
蘭越町
留寿都村
置戸町
和寒町
天塩町
標茶町
羅白町
弟子屈町

社団法人 北海道医師会
北海道放送株式会社
株式会社 北洋銀行
株式会社 北海道新聞社
株式会社 ほくやく
株式会社 ムトウ
大丸藤井株式会社
東京防災設備株式会社
トッパンフォームズ株式会社
北海道営業本部
中道リース株式会社
北海道カーオイル株式会社
小南印刷株式会社
前田タイヤ株式会社
株式会社 常光
アイ・ティ・エンジニアリング
有限会社 クイックドライかさはら
カイゲンファーマ株式会社
菱晃産業株式会社
山藤三陽印刷株式会社
出光リテール販売株式会社
北海道カンパニー株式会社
日立ビルシステム株式会社
北海道医療新聞社株式会社
北基サービス株式会社
関販テクノ株式会社
北海道エネルギー株式会社
なかせき商事株式会社
札幌営業所
日立アロカメディカル株式会社
パシフィックベンディング北海道株式会社
株式会社 H B A
ベル通信工業株式会社
札幌臨床検査センター株式会社
デンソーテクノ株式会社
北海道コカ・コーラボトリング株式会社

サントリービバレッジサービス株式会社
道央情報サービス 協同組合
一般社団法人 北海道臨床衛生検査技師会
有限会社 丸や山口商店
篠路連合町内会
堀井薬品工業株式会社
札幌営業所
マンパワーグループ株式会社
札幌支店
石狩市
北海道キリンビバレッジサービス株式会社
株式会社 リプロワーク
北広島市
社会福祉法人 北海道リハビリー
札幌自動車工業株式会社
岩見沢市
医療法人社団 倉増整形外科
旭川市
協同車輜整備工業 有限会社
産婦人科内科阿部クリニック
株式会社 ノヴェロ 旭川支社
高砂熱学工業株式会社
株式会社 あいわプリント
旭川レディースクリニック
旭川市役所市民生活部市民活動課内旭川市市民委員会連絡協議会女性部
環境衛生工業株式会社
澤井石油商事株式会社
パシフィックベンディング北海道株式会社
有限会社 北光クリーニング
医療法人 アイ・ウイミズクリニック
北海道コカコーポリング株式会社
旭川事業所
有限会社 入江タイヤサービス
旭川トヨタ自動車株式会社
末広支店
株式会社 ホンダベルノ旭川末広店
株式会社 ムトウ 旭川支店

有限会社 ミヤザキ
医療法人 東光マタニティクリニック
株式会社 富貴堂ユーザック
株式会社 ほくやく
北海道日野自動車株式会社
旭川支店
株式会社 ドーホク
日興自動車工業株式会社
有限会社 旭川ティーピーエム
医療法人社団 せせらぎ通りクリニック
北海道食生活改善協議会
釧路市
安藤電気保安事務所
株式会社 近藤設備工業
大栄商事株式会社
株式会社 トヨタレンタリース
株式会社 松井建設
医療法人社団 功仁会 足立皮膚科美容外科クリニック
社団法人 釧路歯科医師会
杉元内科医院
道東勤医協 くしろ医院
ホワイト・デンタル・クリニック
熱原釧路株式会社
千代田電装工業株式会社
東洋印刷
釧路総合印刷株式会社
有限会社 大沢タイヤ商会
帯広臨床検査センター
大同出版紙業株式会社
千葉県
公益情報システム株式会社
東京都
まほろば総合保険株式会社
コード有限責任事業組合

法人会員の部

札幌市

株式会社 朝日新聞社 北海道支社
有限会社 医用センターフクヤ
伊藤組土建株式会社
株式会社 ATM保険事務所
株式会社 エンバイアー
公益財団法人 北海道結核予防会
三機工業株式会社
株式会社 スズケン
つうけんビジネス株式会社
株式会社 日榮舎
日興美装工業株式会社
北海道日野自動車株式会社
株式会社 ベルックス

がん征圧に尊い寄付金

平成25年4月から平成26年7月までにお寄せいただきました寄附金は次のとおりです。
心より感謝を申し上げます。

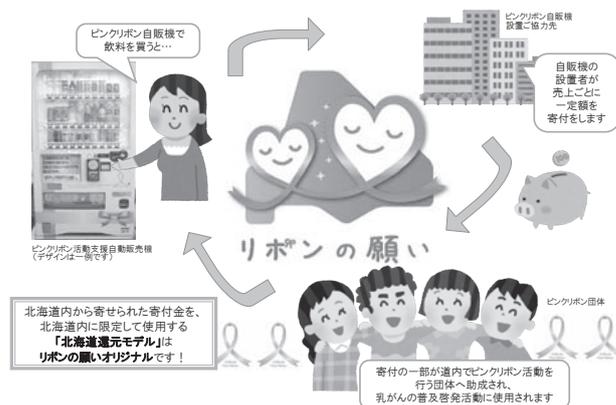
【企業・団体】	ピンクリボン・ファミリー 様	10,000円
	住友生命保険相互会社 札幌支社 様	200,000円
	ロッテ商事株式会社 北海道支店 様	(連名) 230,981円
	株式会社ラルズ 様	
	Chup totto 様	2,520円
	サントリービバレッジサービス株式会社 様	(連名) 18,383円
	札幌駅総合開発株式会社 様	
	KDDI株式会社 北海道総支社 様	300,000円
	サントリービバレッジサービス株式会社 様	(釧路センター設置分) 2,290円
【個人】	故・秦 温 信 様	1,000,000円
	的場 光子 様	50,000円
	菊地 浩吉 様	1,000,000円
	土門 廣子 様	5,000円
	大塚 忍 様	200,000円
	旭川市在住匿名 様	10,000,000円

北海道対がん協会×北海道コカ・コーラボトリング(株) 「リボンの願い」活動状況報告

●「リボンの願い」とは？

北海道対がん協会と北海道コカ・コーラボトリング(株)が協同で推進するピンクリボン活動支援自動販売機を通じて寄せられた寄付金の一部を、北海道内でピンクリボン活動を行う非営利の市民団体へ助成する事業です。

2013年度から開始し、初年度は下記の3団体が当選しました。



★2013年度 助成団体

【Chup tutto(チュプトット)】

ハンドマッサージ・ポイントメイク・ヘアアレンジなど、美容施術を行いながら乳がん検診の大切さを訴えました。

【特定非営利活動法人旭川NPOサポートセンター】

高齢者や専業主婦など職場検診の機会がない方を対象に乳がんに関する講習会を行い、がんに対する意識啓発と早期受診の勧めを行いました。

【特定非営利活動法人北見NPOサポートセンター】

「日本赤十字北海道看護大学」と協働で、20～40代の母親を対象に、クイズや料理教室を通して、乳がんに関する啓発活動を行いました。

★2013年度寄付金贈呈式を開催しました

2010年から設置を開始したピンクリボン活動支援自動販売機ですが、設置台数の増加に伴い、寄付金の額も年々増えており、2013年度は約140万円もの寄付が集まりました。平成26年3月1日、自動販売機の設置先様にお集まりいただき、日頃の感謝とリボンの願いの活動状況をご報告するとともに、2013年度分の寄付を北海道対がん協会へお預かりする「寄付金贈呈式」を開催しました。

自販機設置先様を代表して、KDDI株式会社北海道総社社長前田純一様よりご挨拶をいただきました。

「今回、CSR活動を通じてリボンの願いのを知り、早速参加させていただきました。乳がんは北海道でも急増しているそうなので、積極的に検診を受けてほしいです。」

開催日時：平成26年3月1日(土) 14:00～15:00

開催場所：大通ビッセ 1階 エントランススペース
(北海道札幌市中央区大通西3丁目)

入場：無料

内容：① 寄付金贈呈式
② 「リボンの願い」ポスターセッション



(右から) 北海道コカ・コーラボトリング株式会社
執行役員 上島 信一氏

特定非営利活動法人 耳をすませば
谷井 貞夫様

KDDI株式会社 北海道総社
総社社長 前田 純一様

札幌コンベンションセンター
安田 弘様

北海道対がん協会
会長 菊地 浩吉



(助成団体)
旭川NPOサポートセンター



(助成団体)
北見NPOサポートセンター



(助成団体)
Chup tutto



★2014年度助成団体を決定しました

2014年度は乳がんの患者団体へも広く周知し、参加を募りました。6月25日、北海道対がん協会、北海道コカ・コーラボトリング(株)、及び北海道NPOサポートセンターの三機関で構成する選考委員会を開催し、実現可能性や事業効果・地域との連携・継続性・独自性を選考基準として、厳正に審査した結果、下記の3団体へ助成することを決定しました。どの団体も創意工夫をこらした事業計画であり、今後の展開に期待されます。

最初は、それぞれ道内各地域における活動であっても、少しずつ、北海道全体へピンクリボン活動の輪が広がることを目指します。3団体とともに、道内で乳がん悲しむ人を一人でも減らせるよう尽力したいと思います。

地域	団体名	事業内容
札幌市	ピンクリボンin SAPPORO	女子大生を対象とした「ピンクリボン出前講座」を市内3大学で実施し、医療従事者による講義とミュージカル仕立てのミニ劇場を行います。学生本人だけでなく家族や知人に広がることを目指します。
札幌市	パフォーマンスプロダクション COLORE	フリーペーパー「V i t a -命のリボン-」の発行を通じて、若い世代へ乳がん検診の大切さを訴え、ピンクリボン活動の普及を行います。
北見市	特定非営利活動法人 耳をすませば	「日本赤十字北海道看護大学」と協働で20～40代の母親を対象に、乳がん触知モデル体験や運動教室を通して、乳がんに関する啓発活動を行います。